



日口交流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page: <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel: 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752

ロシア極東連邦大学函館校に学んで

福留 聖司

この度は、私が通うロシア極東連邦総合大学函館校（以下、函館校）について紹介させていただきます。

私は昨年会社を退社し、日口交流協会の協力にて、ウラジオストク市の極東連邦総合大学に長期留学することを当初は計画していました。

しかし、昨年2月ロシアによるウクライナ侵攻が発生し協会より留学中止要請を受けたため、急遽行先を国内に変更し、函館校に入学することとなりました。

函館校は、1994年に函館市と市民団体の協力のもと誘致され、開校した極東連邦総合大学の日本校であり、ロシアの大学の唯一の日本校です。

現在、4年制のロシア地域学科と2年制のロシア語科の二つのコースがあり、ロシア地域学科を卒業した場合には、極東連邦総合大学本学より学士号が授与されます。

私は2年制のロシア語科に在籍していますが、入学前から既にロシア語を学んでいた一学習者の視点から、函館校の教育の特徴を以下に紹介したいと思います。

1点目は、函館校にはウラジオストク市の本学出身のロシア人教員が常勤・非常勤合わせて7名おり、ほとんどのロシア



語の授業を日本語が堪能なロシア人教員が教えているという点です。そのため、例えば前置詞の使い分けについて身振り手振りを交えた説明をするなど、感覚的な説明がよくなされます。これは、日本語の教本だけを読んでも、なかなか分かりにくい点だと感じました。

2点目は、ロシア語の単語の成分の捉え方についてです。函館校の授業では、単語の成分を接頭

語・語根・接尾辞・語尾の4つに分解して捉えることを意識しますが、日本で発行されているロシア語の教本、専門書には通常この方法は載っていません。この方法には、語根の共通性から知らない単語の意味が類推できる、語根が共通する単語を容易に覚えられるといった利点があります。

3点目は、格変化の覚え方についてです。ロシア語の初学者にとって、名詞、代名詞、形容詞の複雑な格変化は悩みの種であり、挫折の原因になっているかと思いますが、函館校ではこれらについて歌で覚えるという方法が取られています。ロシア式なのか、格変化の歌以外にも、長文をそのまま暗記させることは函館校では非常に多いです。

以上、一学習者の視点から見た函館校の教育の特徴について述べさせていただきましたが、全般に、日本人向けにロシア語を教育するノウハウが蓄積されていると感じています。

ここ3年間は、他の大学と同様、函館校でも新型コロナウイルス感染症の影響でロシアとの交流を含む大きなイベントができない状況のようでしたが、今年の2月11日、3年ぶりに学校祭である「ロシアまつり」を本格開催することができました。

ロシア伝統の祭、マースレニツァで「ロシアまつり」は始まり、冬の女神「モレーナ（体長約2mの藁人形）」を囲んで教員、学生が歌って踊り、最後は冬の象徴、「モレーナ」を燃やして春を呼ぶところでクライマックスを迎えます。

思えば、3年前はここに来客の立場で来ていました。あの頃は、まさか自分がここに入学するとは思っていませんでした。本来の予定であった留学にいけないことは痛恨の極みではありますが、この学校とは不思議な縁があったのかと、今では思っております。

お知らせ

●NPO日口交流協会第23回（通算第59回）通常総会開催

日時: 2023年3月25日（土）10:00～10:40

場所: 新橋生涯学習センター305号室

*総会の返信は3月15日までに必ずお願いいたします。

総会後の講演会: 「ロシアと私」

講師: 島山堅蔵事務局長

場所: 引き続き305号室 10:50～11:50

懇親会: 新橋「新橋亭」12:15～14:15

懇親会参加費: 4500円

●ロシア語の泉 (5)

日時: 2023年2月26日, 3月5日, 3月19日（日）13:30～16:00

講師: スニトコ・タチヤナ

会費: 会員7,000円、一般8,000円

会場: 港区立男女平等参画センター「リーブラ」2階

●ロシア語教室生徒募集中!

水曜初級1A-1 (19:00～20:00) 1A-2 (20:05～21:05)

土曜上級 (10:00～11:30)

オンラインクラス月曜準中級 (18:00～19:00)

*レベルに合わせてお選びください。見学もできますが変更の場合もありますので前もって事務局までご連絡ください。プライベートレッスンなどのご希望もご相談にのります。

お申込み、問合せ先: NPO日口交流協会事務所

Tel: 03-5563-0626 E-Mail: nichiro@nichiro.org

お願い

NPO日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらでも結構です。

振込先: 郵便口座00160-9-66486、加入者名: 日口交流協会
連絡先: 日口交流協会事務局 E-Mail: nichiro@nichiro.org

Tel: 03-5563-0626 Fax: 03-5563-0752

☆留学生便り(51)☆

エストニア・タリンでのロシア語使用状況

立岩 優里

エストニアの公用語はエストニア語です。エストニア語は、ヨーロッパ諸言語とは類似性が少ないそうです。ヨーロッパの諸言語は比較的似ているため、3か国語や4か国語を習得するのは特別珍しいことでもないと言われますが、エストニア語はフィンランド語と同様、ヨーロッパの人々が習得するのも難しいと分類される例外的な言語です（個人的にはハワイ語に少し似ているように感じたほどです）。ですが、エストニアはソ連邦の統治下にあった歴史から、ご存知のようにロシア語を話す、もしくは話すことができる人々が現在でも多く存在します。

現在、エストニア国内においてロシア語を使う人は、やはり母語がロシア語のケースが多いです。そして、ロシア語の使用割合は、エストニア内でも地域によって変わってきます。ロシア語を話す割合が特に多いといわれる地域が北東部に存在し、私の過ごした首都タリンでも、ソ連時にロシアから多くの人々が移住したため、そのような人々やその子供たちは、現在でも日常でロシア語を使用しているケースが多いです。そのため、エストニア内でも、エストニア語を話せない人も一定数存在します。裏を返せば、それでも生活できる程、国内においてロシア語の大きなコミュニティが存在するということです。

ですが、公用語がエストニア語になって以降、母語がロシア語の子供たちはエストニア語を習得できるよう教育を受けます。エストニア語をどの程度習得できるかは、入学した学校や個人の努力で差はあるようですが、若い世代についてはエストニア語を全く話せないという人はまずいないでしょう。

ちなみに現在、エストニアの公教育では、エストニア語の学校とロシア語の学校があります。ロシア語を母語とする学生の中でも、エストニア語の学校で学んだという学生もいました。このようなエストニア語とロシア語を同程度使える人々が増えていくと、さらに次の世代ではロシア語の使用率はまた下がっていくの

かもしれません。ちなみに、政府は成人に向けても無料でエストニア語の授業を開催していますし、やはり就労等を考えると、エストニア語を最低限使えることは重要だと見受けられます。

さて、話は戻り、私の滞在していた首都タリンでは、ロシア語を話す人々が想像していたよりも多かったです。市中で耳を傾けるとロシア語しか聞こえないという状況もありましたし、ロシア語を話す人しか働いていないと言われるスーパーやマーケットもありました。

私自身もエストニア語は全く分かりませんが、ロシア語が出来れば最低限生活はできると本当に感じた程です。エストニア語が分からず少し困ったことは、食品表示です。大抵の場合、英語もしくはロシア語表記があるのですが（これは日本から来た当初驚きました）、稀に無い場合もあります。ですが、食品はEU内で流通しているため、同じキリル文字のブルガリア語の表記欄を見れば何とかなるということが何回もありました。

現在、ウクライナ戦争の開始から一年が経ちますが、エストニア国内におけるロシア語の使用に何か変化はあるのでしょうか。私はエストニアに来る前にロシア語使用が減少している話を耳にしたので、あまり外では喋ってはいけない雰囲気なのかなと思っていました。ですが、先ほども述べたように、タリンにおいてはロシア語の使用は多いです。エストニアにいるウクライナの人々から、ロシア語を話したくないと言われることも殆どありませんでした。

エストニアに住んでいる人々からみると如何にも「よそ者」の私が、一旦ロシア語を口にする、想定外と言わんばかりに一度は驚かれます。ですが、言語というのは人と人とを結びつけるものですので、英語ではなくむしろ頑張ってロシア語で話しかける方が好意的に接してもらえることの方が多かったです。



「ロシア民謡を楽しむ会」の再開に向けて

田中 徹

NP0日ロ交流協会に附属する「ロシア民謡を楽しむ会」は今年で28年目を迎えました。会員の高齢化、コロナ禍、ウクライナ侵攻という逆風の中、3年間のブランク（休会）を経て再開を模索しておりましたが、会員諸氏の意向を踏まえて漸く3月より再開の運びとなりました。

かような世界情勢の中、ロシア民謡などを歌っていて良いのかというご意見もありますが、昨年10月にはモイセーエフ民族バレエ団日本公演も成功裡に行われたように、政治と文化は切り離し、ロシア音楽という私たちの心の拠り所を無くしてはならない、またロシア語で歌い続ける貴重な合唱団の灯を消してはならない、との会員からの強い要望もありました。

著名なピアニストである指導者のミハイル・カンディンスキー先生も、この3年間「いつでも再開出来るように」と自らのお忙しい日程を空けておいて下さいました。ようやくこの善意に報いる事が出来ます。



カンディンスキー先生

現在は3名の入会希望者、2名の復帰者も居られ少人数ながら月に1回のペースで今期は活動する事にしました。改めて皆様のご協力（会員の勧誘）をお願いする次第です。ソプラノ、アルト、テノール、バス何れも大歓迎です。

なお3月4日（土）14：00より2時間、コロナ対策を行いながら再開します。場所はJR新橋駅烏森口徒歩2分、新橋生涯学習センター301号室。お問い合わせは、岩間さんへお電話ください。03-3357-6584まで。どうぞよろしくお願いいたします。

（ロシア民謡を楽しむ会会長）

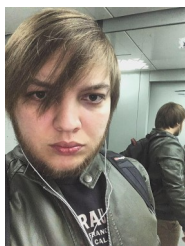
.....
なお、ミハイル・カンディンスキー先生のピアノと美帆子カンディンスキーさんのヴァイオリンによるご夫妻でのデュオリサイタルが、3月12日（日）17：00より、東急池上線のイデアレーブ イケガミで開催されます。（一般4000円、学生2000円）どうぞお越しください。お問い合わせはアトリエ・カンディンスキーまで。（090-9344-5244）

《モスクワ・アラカルト74》

私の「子供」ヤロスのこと

日向寺 康雄

30年もロシアに住みながら、私はついに「家庭」というものを持てなかったが、不思議な縁と強い人間的絆で結ばれた「子供達」を得ることができた。血のつながりは、もちろんない。様々な理由で遠い地方から首都に出てきて、モスクワの我が家に一時期居候し、私の仕事を手伝ってくれ「同じ釜の飯を食った」若者達だ。彼らの何人かについては、この連載でも取り上げたので覚えておられる方もいるだろう。ウクライナでの特別軍事作戦開始からすでに一年、彼らの運命も大きく歪められた。今回は、そうした一人サマルカンド出身のヤロスについて、少し話したい。



で、何よりも私の周囲にいたロシア人青年たちに比べ、断然バイタリティに溢れヤル気に満ち満ちていた。友人達との結束も固い。ウズベクでは兵役を終えており、ガタイもよくテコンドーの腕前もかなりのもの、おまけに料理も得意だった。そして何よりも、幼少時、市場でパンを売っていた頃、日本の「ヤクザのおじさん」に可愛がってもらったとの事で、初めから私に好意全開でひどくなつた。

その後、中央アジア情勢の変化もあり、ついに彼はロシア国籍取得を決意、その当時、東及び南ウクライナからの避難民が急増し手続きは実には大変だったが、5年近くかけて目的を遂げた。ただモスクワ近郊の居住権は得られず、ウリヤノフスクで友人達と事業を起こし、火事（漏電）で工場が燃えたり、コロナウイルスに罹るなど次々と苦難に見舞われながらも、やや太目とはいえ筋トレを怠らないマッチョな写真と共に、楽天的で甘ったれな「ガンパッテマス」メールをよく私に送ってくれていた。

それが、昨年末、知人を介し「動員されそうだ、とても悲しい」というメッセージが届き、私からのメールに返信が来なくなった。しかしつい先日、私の誕生日に今年も忘れずお祝いメールを送ってくれ「まだロシア国内にいる、近くフ・コンタクチェ（ロシア版フェイスブック）で顔を見ながら話したい」と書いてきた。あれから一週間以上過ぎたがまだ話せていない。

(元モスクワ放送チーフアナ、現中大及び早大非常勤講師)

彼は、ソ連崩壊後、ウズベキスタンで医師として働いていたアルメニア人の母と当時同国に駐留していたNATO軍兵士の間に生まれた。なお彼には母の前夫であるウクライナ人の血を引き、ロシア軍人（誕生がソ連崩壊前だった）となった兄がいる。政治情勢が変わり父が母国ドイツに帰った後、残された彼は、まず市場で働きながら金をため、十代後半には実家の建物を町で最初のインターネットカフェに改造、それが当たって母や祖母、伯母を面倒みるまでになった。

しかし非ウズベク人である自分が地元で活躍できる可能性に限界を感じ、故郷を出て一旗揚げようとモスクワに向かった。私が彼と知り合ったのは、ちょうどその頃（2012年）で、当時地下鉄駅付近に林立していた小店舗を借りて、友人達とミニスーパーを始めようとしていた。大学は出ていなかったが、ITの知識は豊か

バルザックとロシア／ウクライナ(2)

畔上 明

サンクト・ペテルブルクからパリへの帰り道は、往路は船酔いが激しかったからということで陸路10月7日から11月3日迄1ヶ月をかけてバルト、プロシヤ、ドイツに立ち寄りながら馬車に激しく揺られ尻を傷めこれも相当つらい思いをしてお帰還でした。ロシアから帰ってからというものハンスカ夫人との新生活を思い描きそんな浮き立つ心で骨董品を蒐集し始めたようです。筆まめなバルザックではありませんが残念なことにサンクト・ペテルブルク滞在中の記録はありません。それ程にハンスカ夫人に夢中な日々であったことを表しているとも言えるでしょう。何年か後に手紙の中で、サンクト・ペテルブルクへの感慨を記しています。ネヴァ川、青いサロン、河岸、冬宮、エルミタージュ、ネフスキー通りのイギリス・デパート、二ヶ月間の結びつきは初めて自由に語り合えたこと、こころの結びつきの曙といえる日々……

バルザックにとって、サンクト・ペテルブルクの二ヶ月はその生涯のハイライトというべきものであったと言っても過言ではないでしょう。ヨーロッパの作家にとっての、スラヴ世界との出会いと接触はたいへんに強烈な印象をもたらしたに違いありません。これほどにこころ惹かれていった、その足跡を調べていくことは、ヨーロッパから見たスラヴのこころへの関心の具体的な一例として、興味深いものです。

その後バルザックは、1845年4 - 8月にかけて、今度はハンスカ夫人とその娘のアンナと共にドレスデン、ストラスブール、オランダ等を旅行し、9 - 11月に再び夫人と共に南仏、そしてナポリへと出かけました。

1846年もヨーロッパのあちこちでハンスカ夫人と出会う機会をもうけ、3 - 4月はローマ、その後スイス、そして、5月26日に別れたあと夫人が妊娠したとの知らせを受けて感激、8 - 9月ドイツで再会、12月1日に流産の知らせで悲嘆に暮れて半月の間はペンを執ることが出来なかったといひます。

1847年は2月にフランクフルトで再会し5月初めまでをパリで一緒に暮らした後、9月5日北欧から鉄道でウクライナへ向かいました。とうとう9月13日ヴェルヒヴニャ（キエフの西131kmのジトミールより43km南下したところがベルディチェフ、そこから60km）のハンスカ夫人の館（現在は村の農業高校となり、バルザックの暮らしていた部屋は博物館になっている）に到着、48年1月末までをそこで暮らしたのでした。

バルザックにとっての人生の大詰め、1848年9月19日パリをあとにし、10月2日ヴェルヒヴニャへの再訪、49年は年間を通してウクライナに滞在していました。春先に健康を害し6月に心臓発作、50年の年明けからも体調は優れず、1月末キエフへ旅しますが暫くして二十日間ほど病に臥すことになり、意を決して3月14日ベルディチェフの聖バルバラ教会で結婚式を挙げたのでした。ハンスカ夫人からバルザック夫人となったエーヴの思いやりは、4月24日ふたりでウクライナから旅立つところとなりバルザックの故国フランスへと向かいます。5月20日パリ到着、それからの3ヶ月間バルザック最後の日々をかつて彼が小説に書き続けたまちパリで共に過ごし、精力的な50年に亘る生涯を送ってきたバルザックも遂には8月18日に人生の終焉を迎えることとなったのでした。

国際放送史研究の戯言No021

ニコライ・コンスタンチノヴィッチ・リョーリフ

島田 顕

今回はニコライ・コンスタンチノヴィッチ・リョーリフ（ドイツ語ではレーリヒ）のことをお話ししたい。リョーリフは画家であり、思想家であり、探検家である。モスクワの中心部、地下鉄クロボトキンスカヤ駅、ヴォロヴィツカヤ駅の近くにリョーリフを記念した博物館（美術館）がある。放送局に勤務していた時に、何度か見に行ったことがある。

リョーリフは、1874年にサンクトペテルブルクで著名な公証人の家庭に生まれ、ギムナジウムを卒業、1897年ペテルブルグ大学に入り、さらに1898年美術アカデミーを卒業後、パリに留学、帰国後画家としての道を歩み始めた。最初は古代スラブの絵画作品を描いたが、1910年代になると教会壁画とモザイク画、舞台装飾にもその才能を花開かせた。そして

ヨーロッパ諸国を巡る旅に出、さらに1924年から1928年には、家族とともに、カラコルム山脈、タリム盆地、アルタイ、モンゴル、チベット高原を経てシッキムへと至る大冒険に出る。1929年以降は、イ



5宝の山（二つの世界）1933年テンペラ
ニコラス・レーリッヒ美術館蔵

ンド北部のクルー溪谷に定住した。インド定住以降のリョーリフのほとんどの作品は、ヒマラヤに捧げられた宗教的なものとなった。しかし古代ロシアに関する作品は、大祖国戦争期にも描かれ、絵画作品を販売して得られた報酬を、戦う祖国を助けるための基金として、祖国に送金した。第二次世界大戦後の1947年にインドで亡くなった。

またリョーリフは、第一次世界大戦前から、人類文明を救う必要性、戦争や紛争中の破壊から文化的建造物を救う必要性を考え、1929年に文書を作成して公開したものが、「レーリヒ協定」として知られるようになった。「協定」に基づき、1930年代半ばにさまざまな国の代表者の署名が行われ、1935年には「芸術上及び科学上の施設並びに歴史的記念物の保護に関するワシントン条約」（レーリヒ条約）が結ばれる。このレーリヒ条約を補強する形で、最終的に文化財保護に関する文書は1954年のハーグ会議で「武力紛争の際の文化財保護のための条約」として承認された。まさにリョーリフの貢献で実現したのである。

リョーリフの作品を一言でいうなら、ヒマラヤの山の風景である。だがリョーリフが描く山の風景は、大きくて、おおらかに、見る人々に安らかな感情を芽生えさせてくれる。私たちすべてを優しく包み込んでくれるようだ。

ウズベキスタン便り

寺尾 千之

2月11日（祝日）、横浜ユーラシア文化館で開催中（11月26日-2月26日）の「青が誘うウズベキスタン・萩野矢慶写真展」に行ってきました。（写真ご参照）日ウズ外交関係30周年記念、ユーラシア文化館・開館20周年記念と「記念づくり」の今回は、1、2階に写真や資料展示、中庭にはゲル、その前のホールでは馬頭琴とホーミーの演奏と、ユーラシア大陸を疑似体験できる作りになっていました。前日の雪とは打って変わり温かな後楽日和に恵まれた当日は、親子連れなど幅広い年齢層の方で賑わっていました。

萩野矢氏に初めてお会いしたのは2000年12月15日、赤坂のジェトロ展示場の「ウズベキスタン展」（12月15日-21日）でした。会場では、ワインなどのウズベク特産品やアトラス・陶器などの伝統工芸品をウズベク人が紹介していました。萩野矢氏は、日本初のウズベク写真集「ウズベキスタン・シルクロードのオアシス」（2000年東方出版）紹介のため、参加されていました。それ以来、流山フェスタ（2001-2004）での写真展開催など氏とのご縁が続いていました。

今回の写真レイアウトについて、萩野矢氏が解説してくださったメールから一部抜粋しますと「ヒヴァは正門から入場すると、いきなり目前に26mのカルタ・ミナレが聳え立っています。バザールの最初に大魚を吊るした魚屋の写真がありましたが、2019年に映画監督の黒沢清氏が、この写真に惹かれ

て映画『旅の終わり・世界のはじまり』を北部のアイダクル湖で撮影を行いました。バザールは8枚組で、写真の前に立つと、全体から活気、熱気、生活感が漂うように並べられていました。NORIKO学級を含む子ども4点の写真は『ウズベキスタンの未来』のコーナーでした。学級の2点は広告塔になりえる知的な表情の生徒を選んでみました。次の、絨毯、アトラス、スザニの女性職人たちは、写真写りの良い美人を選びました。『ウズベキスタン・ガイド』（2016年彩流社出版）を制作することから、ウズベキスタンの『顔』になるからです。このコーナーの最後は『チャイハナ』の写真でしたが、ここで一休みをしていただきたいという思いからです。そして、次は2階の『青』の世界に進みます。ラストは夕焼け、夕日でENDです」とのことでした。来展者の感嘆の言葉「わあ、綺麗！」の背景には、写真家とスタッフによるさまざまな工夫とご尽力があったことを、

氏の解説から知ることができました。

1月31日にご高覧されたというウズベク大使も、大変満足されていたと聞き及んでいます。急速に発展中のウズベキスタンですが、写真家はじめ多くの日本語ボランティア講師の渡航の原動力となったウズベキスタンの伝統美とNORIKO学級で学ぶ子ども達の純粋で知的好奇心に溢れた目の輝きに、改めて感動した1日になりました。（リシタン・ジャパンセンター事務局長）



筆者：向かって左から2人目